

因霜雪年凶

壞れ流れ多くは其跡淵と成人の損亡不可勝計、目も當られぬさまなり、洛邊にも加茂川、桂川溢れて、農村頃壞し田地不毛せり、然りといへども、國々悉くは不然、明和の早も爾なり、舊年の如き四隅一面の凶は、年久舖無き事なり、元祿の末、世の中懶うく成て、寶永と改元ありしを、世人悦びて、源六殿が出替りて、ホウ永事や、世直ると口號み、また、寶永祭は見事な事よ、など諷て、祝ひ直せども、曾て驗なく、富士山燒、洛は大地震、大雷、大火、連年續き、世の風俗も、花奢頻りに長じ、通用金銀は黒銅と成り、飢人道路に斃れ、淺猿かりし事共、年長たる人の物語には聞きぬれ共、我未生以前の事なれば、委しき事は知らず、當時のさま實にも其頃に似たれば、凡そ八九十年以來の凶年たるべしと答ふ。

〔日本書紀天武二十九〕十一年七月戊午、是日、信濃國、吉備國並言霜降亦大風、五穀不登、

〔八幡宮年日記長帳續二〕文明九年七月始北陸道紅雪一寸降、諸作枯大飢饉、

永正十三年四月十一日、諸國大雪大雹降、其形如梅、會津別シテ大雪平地四尺餘降、惡作飢饉、

〔妙法寺記上〕永正十五戊其年八月廿六夜、大霜降テ、明ル日マデキエズ、世間ツマルコト無限、秋ノ賣買ハ、米六十七文ナリ、當國山里ノ米荷ヲ、山家不通、米ノ賣買、此郡一粒モ無之、耕作イカニモ實不入、蕨ヲ九月マデホル也、摠而此年堀トラス、明ル五月迄ホルナリ、

〔新選和漢合圖〕永正十五年戊寅八月廿六日、大雪降、天下餓死、

〔享祿以來年代記〕永祿九丙寅六月八日霜降、大饑天下三分之一死、

〔十三朝紀聞光格〕天明三年八月十三日、陸奥隕霜、殺菽及蕎麥、東國飢、南部尤甚、米斗錢二貫五百文、

餓死者多、

因蝗年凶

〔續日本紀文武〕大寶二年三月壬申、因幡、伯耆、隱岐三國、蝗損禾稼、

〔碧山日錄〕長祿四年元寬正五月十日丙戌、宿雨不晴、民曰、青苗腐濕、其根生蝗云、閏九月十八日辛